

■谷三山(一斎) 儒学者。少年期に聴力失うも刻苦して大成し、儒臣に抜擢後、さらに失明に至るもなお勉強した。

たにさんざん

膝栗毛始・・・1802＝ 大和国高市郡南八木村で、豪族桜井氏の末裔で代々米穀商(倉橋屋)を営む谷重之の三男に生まれる。

経済的ゆとりを背景に、書を読み詩歌を吟ずる文人の父の影響を受けて育つも、

幼時から病弱で、

ゴロアツシ拿捕 1811＝ 9歳：この頃、耳と目を患い、

・・・・・・ 1815＝13歳：聴力を失うに至ったが、

学問への志はゆるがず、父と兄から物心両面支えられて、多くの書籍を読破し、独学で思索を重ね、

水野忠成老中 1818＝16歳：

・・・・・・ 1820＝18歳：

蝦夷地直轄終 1821＝19歳：紀州の人と学問上の親友となり、

シボク 朴鳴滝塾 1824＝22歳：*阿波の前川仲賀・大和の高取藩儒柳田三島や五条儒医小林伯蛟らと親交始め、初の書「淡菴管見」を著す。

異国船打払令 1825＝23歳：この年入門してきた8つ年長の吉村抑亭とは師弟を超えた間柄となるなど、学友にも恵まれ、

シボク 朴迫放・ 1829＝27歳：兄に付き添われて京都に遊学、猪飼敬所と出会い、筆談を通じて学識が認められ、以後、文通を重ね、

また、敬所を通じて、頼山陽と間接ながら相互に尊敬する学友となるが、

鼠小僧磔・・・ 1832＝30歳：この年、山陽は死去。

高島砲術・・・ 1834＝32歳：この年、伊勢国津藩へ出講した帰途、わざわざ南八木村に寄った敬所と集中的に筆談するなど、40も年が

離れながら、相互に敬愛する師弟関係が続く。

早くから近隣の子弟を教えていたが、有名になるに連れ、遠方からも多数の青少年が入門してきたため、

滑稽+人情本 1835＝33歳：*家塾(興談館)を興し、

大塩平八郎乱 1837＝35歳：

適塾オープン・ 1838＝36歳：

勸進帳初演・ 1840＝38歳：「興談館塾約」を制定。

長年の教学への貢献が認められて、

天保改革終・ 1844＝42歳：*高取藩主から儒臣に抜擢され、士分格と苗字帯刀が許され、永年三人扶持となる。

阿部正弘首座 1845＝43歳：この年、敬所が死去。

・・・・・・ 1847＝45歳：

北斎没・・・ 1849＝47歳：健康を害して、視力も失い、この前後、父母・兄を相次いで失いながらも、

万次郎帰国・ 1852＝50歳：「海外異伝商？」、

ペリー来航・ 1853＝51歳：「靖海芻言」を著し、

松下村塾・・・ 1856＝54歳：

桜田門外変・ 1860＝58歳：

8月18日政変 1863＝61歳：高取藩主に尊皇攘夷策を建言するなど、衰えることなく学問を続け、

薩摩藩士密航 1865＝63歳：

大政奉還・・・ 1867＝65歳：没した。